校長室だより

２０２２年７月１日
校 長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

学校 HP

すさまじきもの

昼吠ゆる犬。春の網代。三，四月の紅梅の衣。牛死にたる牛飼ひ。乳児亡くなりたる産屋。火おこさぬ炭櫃，地火炉。博士のうち続き女児産ませたる。方違へに行きたるに，あるじせぬ所。まいて節分などは，いとすさまじ。

枕草子の一説です。

もともとは「物足りずさびしい。荒涼としている。情趣がなく興ざめするもの」というような意味の言葉でした。しかし今では，「勢いや程度が異常に激しい」という意味で使われるようになっています。秋に，しまい忘れた風鈴の音を聴いて，「すさまじい！」と言う人はいないでしょう。

一部の若者に見られるような言葉遣いの乱れや明らかに間違った用法は論外ですが，言葉の使い方や表現は，長い時を経て，時代と共に変化するものです。

特に近年は，情報化の急激な進展やグローバル化の波の中で，言葉の変化は急激なものとなっており，止められない時代だと感じています。

しかし，言葉（私たちにとっては日本語）は，掛け替えのない大切な自国の文化です。急激な変化の中で，順応していく努力をすることも必要ですが，以前の校長室だより（2021 年 7 月 9 日号「『無形』を伝える」）でも触れたように，時代と共に変化することはあっても，決して，流されて安易に形を変えて良いものではありません。この意識が，情報化やグローバル化，マスメディアの介在などによって薄れているのではないかという危機感を持っています。

これまでの長い歴史の中で育んできた「日本語」については，国語の学習を中心に，自国の文化として子供たちに大切に伝えていくことが小学校の責務だと思っています。小学校から外国語学習（英語）が教科となりましたが，母国語を疎かにして，日本語も英語も「かたこと」の大人が国際人として活躍できるでしょうか。言葉をはじめとして，様々な自国の文化や伝統を理解し，誇りを持って外国に紹介できてこそ，真に国際的であると言えると思います。

小学生の時期は，周囲からの様々な情報を吸収する感性に満ちており，学習や人格形成等にとって重要な時期です。国語指導に限らず，その大切な時期の教育を預かる者としての責任を強く感じながら，日々，子供たちと接しています。

切 り 取 り 線

子供たちのための，意見・提案・要望・校長に知らせたいこと　など

2022 年 7 月 1 日（　）年（　）組 児童氏名

※匿名でも結構ですが，御連絡が必要な場合等を考え，記名していただけるとありがたいです。
※担任に御提出いただいても，校長室前のポストに直接入れていただいても，校長に直接手渡していただいても，いずれでも結構です。
※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）